様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	奈良女子大学
設置者名	国立大学法人奈良国立大学機構

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	人文社会学科	夜・通信	82	6	15	103	13	
	言語文化学科	夜・通信			0	88	13	
	人間科学科	夜・通信			35	123	13	
理学部	数物科学科 数学コース	夜・通信		0	0	82	13	
	数物科学科 物理学コース	夜・通信			2	84	13	
	数物科学科 数物連携コース	夜・通信			0	82	13	
	化学生物環境学科	夜・通信			0	82	13	
生活環境学部	食物栄養学科	夜・通信		25		107	13	
	心身健康学科 生活健康学コース	夜・通信		24	4	110	13	
	心身健康学科 ｽﾎﾟｰﾂ健康科学ｺｰｽ	夜・通信			0	106	13	
	心身健康学科 臨床心理学コース	夜・通信			22	128	13	
	情報衣環境学科 衣環境学コース	夜・通信		14	4	100	13	
	情報衣環境学科 生活情報通信科学コース	夜・通信			6	102	13	
	住環境学科	夜・通信		37		119	13	
	生活文化学科	夜・通信		8		90	13	

	文化情報学科	夜・通信		2	84	13	
工学部	工学科	夜・通信		23	105	13	
（備考）「学部等共通科目」欄について、文学部・理学部は「学部共通科目」、生活環境学部は「学部共通科目」および「学科共通科目」、工学部は「学科共通科目」を計上。							

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Web 上に掲載　http://koto.nara-wu.ac.jp/kym2003/jitsumu_gaiyou.pdf

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	奈良女子大学
設置者名	国立大学法人奈良国立大学機構

１．理事（役員）名簿の公表方法

大学ＨＰにより公表 URL：http://www.nara-ni.ac.jp/about/system/director.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
常勤	（現職）学校法人トヨタ学園フェロー（前　豊田工業大学学長）	2022.4.1 ～ 2025.3.31	理事長として機構を代表し、その業務を総理する
非常勤	（現職）甲南大学アドバイザリーフェロー	2022.4.1 ～ 2024.3.31	理事として理事長を補佐し、国立大学法人の業務を掌理する
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	奈良女子大学
設置者名	国立大学法人奈良国立大学機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 次年度授業科目のシラバス作成依頼（例年１月）にあたっては、教育計画室にて定めた文書「シラバス作成について」を授業担当者に示し、内容および書き方について指定している。具体的には、授業名、担当教員名、時間割、教室、授業方法、授業で使用する言語、対象学生、単位数・週時間といった基本情報の他、担当教員の実務経験、授業の概要と学習到達目標、授業計画（各回の内容と事前・事後学習を含む)・教科書・参考書、成績評価の方法（評価割合を含む）等について詳細に解説している。 特に学習到達目標については、さらに文書「学習成果ガイドライン」の参照を促し、趣旨の徹底を図っている。学務課にて集約されたシラバスは検索システムCampusmate-J を通じて Web 上で公開され（例年３月)、学生はじめ閲覧の用に供している。	
授業計画書の公表方法	大学 HP 内のシラバス検索システム Campusmate-J http://koto.nara-wu.ac.jp/kym2003/syllabussearch.html
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 成績評価に関する事項は「奈良女子大学成績評価に関する規程」において、成績評価はあらかじめシラバス等で評価基準を学生に周知し明示した基準に基づき厳正に判定すべきこと、成績評価区分（S・A・B・C・F）の基準、科目修了試験に際し重大な不正行為を行った者については当該学期の全履修科目の単位を認定しないこと等を定めている。成績評価基準に基づき、各教員が予め周知した評価の方法と学習目標の到達度に沿った評価を実施し、成績の評価と単位認定が適切に行われている。 シラバスの作成時には文書「シラバス作成について」を通じて、各科目担当教員に対して、試験やレポートなどの評価方法について問題や課題をどのように評価するのかを、なるべく具体的に記入するよう求めると同時に、「成績評価割合」欄を設け、「定期試験（期末試験)」「授業内試験等」「宿題・授業外レポート」「授業態度・授業への参加度」「受講者の発表（プレゼン)」「教員独自項目」(設定する場合は「成績評価割合の教員独自項目」欄に項目を記入）の各観点の評価割合をパーセンテージで記入するよう求め、できるだけ複数の評価の観点を導入するよう促している。	
３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

平成 27 年度以降入学生については GPA 制度を導入し、全学生に配布される『全学教育ガイド』に成績評価基準および不正行為に対する注意喚起とあわせて記載するとともに、毎学期に各学生に交付する成績通知書に当該学期および通算の GPA 値を記載し、学部・学年別の GPA 分布は学内で共有を図っている。一方、各学部で、指導を担当している学科・コースの教員に、当該学科・コースに所属する学生の GPA のリストを学年別に通知し、特に数値の低い学生については当該教員に個別指導を促している。

さらに、各学期の終期に Web 上で成績及び GPA を確認する期間を設け、学生自身が確認したことを調査し、個別指導の有無も確認している。確認した成績については、次学期のはじめに「成績確認期間」を設け、学生が自身の成績について疑義がある場合は学務課の所属学部担当係に申し出るよう『全学教育ガイド』に記載している。申立があった場合、科目担当者に連絡して回答を求め、最終的に学生の納得が得られたかどうか確認している。

GP および GPA の算出方法は下記の通りである。

GP＝（GPA 算出対象科目の素点－50）÷10

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{《当該学期の履修登録科目の GP×当該科目の単位数》の総和}}{\text{当該学期に履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\text{通算 GPA} = \frac{\text{《在学全期間の履修登録科目の GP×当該科目の単位数》の総和}}{\text{在学全期間に履修登録した科目の総単位数}}$$

客観的な指標の算出方法の公表方法	冊子『全学教育ガイド』、「奈良女子大学 GPA 制度に関する実施要項」（大学 HP 規程集にて公表） https://education.joureikun.jp/naraniher/act/frame/frame110010184.htm

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

全学の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）は、平成 29 年度に作成し、公開した。この策定を受け、各学部および大学院研究科において、従前のポリシーの見直しを行い、教授会で承認の上改定し、公開した。全学のポリシーでは、期待される能力や社会が求める人材像を描き、学びの目標を明確に示している。このポリシーに沿って、具体的な各学部・研究科のディプロマ・ポリシーが制定されている。

全学のディプロマ・ポリシーは次の通りである。

『女子大学という特色をもつ本学は、学生の皆さんが、男女共同参画社会をめざしつつ、地域に根ざし、あるいはアジアをはじめとする国際社会に羽ばたいて、よりよい社会の実現のために貢献できる人に育つ場です。そのためにはまず、大学ならではの各自の学びを究め、高い専門的能力を身につけることが必要です。それと共に、それぞれの専門性が高度に分化しつつ急速に発展している現代社会に生きる人間には、そもそも「よりよい」とは如何なることかを常に問い直すことのできる深い教養と、自らの専門性を異なる布置や文脈に位置づけ直し、新たな知や価値を見出すことのできる創造性が求められています。

以上のような人になるべく、所定の期間在学して学び、各学部等が単位等に関して定める所定の要件を満たした学生に、本学は学位を授与します。』

以上のディプロマ・ポリシーに従って、学部規程等により卒業要件を明確にし、カリキュラムが策定されており、学生の単位取得状況に基づき、卒業（修了）判定資料を作成し、教授会にて審議の上、卒業の認定を行っている。

卒業の認定に関する方針の公表方法	大学 HP にて公表 http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/3policies/index.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	奈良女子大学
設置者名	国立大学法人奈良国立大学機構

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/institute/article22/index.html#zaimu
収支計算書又は損益計算書	https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/institute/article22/index.html#zaimu
財産目録	－
事業報告書	https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/institute/article22/index.html#zaimu
監事による監査報告（書）	https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/institute/article22/index.html#zaimu

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：令和３年度国立大学法人奈良女子大学年度計画　　対象年度：令和３年度）
公表方法：大学ＨＰにより公表 URL:https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/institute/article22/index.html#gyomu
中長期計画（名称：国立大学法人奈良国立大学機構 第４期中期目標・中期計画　対象年度：令和４年度～令和９年度）
公表方法：国立大学法人奈良国立大学機構ＨＰにより公表 http://www.nara-ni.ac.jp/about/Plan4th.pdf

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：大学ＨＰにより公表 URL：http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/institute/article22/index.html#hyoka

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：大学ＨＰにより公表 URL：http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/institute/article22/index.html#hyoka

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　文学部
教育研究上の目的（公表方法：Web 上で掲載） http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/purpose/index.html
（概要） 文学部は、人間性への深い洞察に根ざした人文社会科学的な知をもって、人間及びそれを取り巻く世界にかかわる諸問題の研究を学際的・総合的に推進し、それらの研究成果をもとに高度な専門教育を行い、現代社会が直面する複雑な諸課題の解決に貢献できる人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：Web 上で掲載） http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/3policies/pdf/letters/dep_of_history_sociology_geography.pdf http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/3policies/pdf/letters/dep_of_language_and_culture.pdf http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/3policies/pdf/letters/dep_of_human_sciences.pdf
（概要） 【学位授与の前提となる教育理念と目的】 奈良女子大学文学部は、人間という存在を深く理解し、社会を総合的に鋭く認識する女性の育成を目指します。幅広く深い教養をもとに、人文社会学科、言語文化学科、人間科学科で展開する諸分野に関する学修を通じて、専門的知識や技能を身につけ、主体的に課題を発見、分析、解決する実践力を養います。そして、グローバルな視点から自分の考えを的確に表現、発信できる積極的な人材を育成します。 【身につけるべき力】 ・豊かな感受性と鋭い洞察力をもち、人間とは何かについて深く考える力 ・社会における諸事象を俯瞰し、批判的にとらえ、的確に判断する力 ・歴史・文化・言語・地域についての確かな認識をもとに、自らの考えを発信する力 ・主体的に課題を発見・分析し、解決に取り組む力 【学位授与の要件】 本学部で定めた在学期間内に上記の目的に沿った授業科目を履修し、所定の単位を修得のうえ、卒業論文を提出して審査に合格した学生を、上記の力を身につけたものと認め、「学士（文学）」の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：Web 上で掲載） http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/3policies/pdf/letters/dep_of_history_sociology_geography.pdf http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/3policies/pdf/letters/dep_of_language_and_culture.pdf http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/3policies/pdf/letters/dep_of_human_sciences.pdf
（概要） 【文学部のカリキュラム構成】 奈良女子大学文学部では、入学後に学生自らが学科・コースを選択していく制度をとっています。２年次から学科に分属し、３年次にコースを選択します。 文学部の専門科目として「学部共通科目」「学科科目」を開講します。「学部共通科目」（基礎演習、概論等）では、専門分野の基礎的な知識を獲得するとともに、情報リテラシーやコミュニケーション・スキルを養います。２年次以降に履修する「学科科目」（特殊研究、講読、演習、実習等）では、自身の課題を探求するための深い専門性を身につけます。 最終年次に、これらの学びの集大成として卒業論文を作成します。 【文学部の教育内容と方法】 ・異文化に対する理解を深め、国際社会を視野に入れた思考ができるよう、2 カ国語以上の

外国語を習得します。
・大学における多様な学問に触れ、幅広い教養を身につけるため、大学の教養教育の理念に基づき、４年の学修期間を通して教養科目を履修します。
・文学部での学びの導入として、１年次での「基礎演習」や「学ぶことと女性のライフスタイル」の履修を通じて、自ら問題を発見し論理的に思考する力を養います。
・演習、実習等では、少人数の履修者による主体的・協働的な深い学びをつみ重ねながら、専門的スキルを高めます。
・幅広い視野を獲得し、学際的な研究テーマに取り組むことを可能にするため、「学科科目」の大部分は、他学科の学生も自由に履修することができます。
・文学部が取り組む「なら学プロジェクト」「ジェンダー言語文化学プロジェクト」関連科目の履修により、さまざまな学問的アプローチによる最新の研究成果に触れることができます。
・「卒業論文」は、全学科・全コースで必修です。
・「卒業論文演習」では、専門的知識に基づいて課題を発見・解決するプロセスを履修者全員で共有し、ひとりひとりが的確な「ことば」で論理的に説明する能力を高めます。
・6 年一貫教育プログラムでは、学部から大学院博士前期課程まで継続的に研究を行うとともに、留学などの学外での学修を自ら柔軟に設計することが可能です。
【学修成果の評価】
学修成果の評価は、それぞれの開講科目のシラバスに示された成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）に従い、公正かつ厳格に行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web 上で掲載）
http://koto.nara-wu.ac.jp/nyusi/admission.html#bungaku

（概要）
【文学部の教育理念】
21 世紀の日本社会は、複雑で困難な諸課題に直面しています。奈良女子大学文学部では、とくに人間と社会にかかわる諸問題に取り組み、解決に導く能力を身につけるための高度な専門教育を推進しています。豊かな知性と感性を持ち、主体的に学び実践する女性が日本の社会を変えていくことを確信して、文学部では「社会への鋭い認識」「国際的視点に立った思考力」「人間への深い理解」を育むことを教育理念としています。
【文学部の求める学生像】
上記の教育理念にもとづき、文学部は次のような学生を求めます。
・正確な知識をもとに、ものごとを論理的に表現する学力を培ってきた人
・多様な文化、現象に関心を持ち、自分自身で課題を見つけ出そうとする人
・教師や友人たちとともに学び、相互理解と共感を通じて、人間的な豊かさを求めようとする人
【文学部における入学者選抜の基本方針】
文学部の一般選抜では、高等学校における学習の基本的達成度を問う大学入学共通テスト（5 または 6 教科、7 または 8 科目）と、文学部の学問の共通の基盤である「ことば」についての正確な知識及び論理的説明に不可欠な「ことば」の運用能力を問う個別学力検査（国語・外国語の 2 科目）を課しています。「国語」と「外国語」では「ことば」の基礎知識の有無を確認し、記述式の設問によって読解力と文章作成力を判定します。
2021 年度入学生から、従来の AO 入試に代わって、文学部で設定した４つの探究テーマにもとづく〈総合型選抜　探究力入試「Q」〉を実施しています。また、子ども教育専修プログラムで〈学校推薦型選抜〉を、その他の特別入試として、私費外国人留学生入試、第 3 年次編入学試験を実施しています。

学部等名　理学部

教育研究上の目的（公表方法：Web 上で掲載）
http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/purpose/index.html

（概要）
理学部は、高いレベルの基礎科学の教育・研究活動を通じて、広い視野にもとづく問題発掘・問題解決能力を持ち、次世代の課題にリーダーシップを発揮することのできる教養豊かな女性を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：Web 上で掲載）
http://www.nara-wu.ac.jp/rigaku/policy_pdf/faculty_of_science_policy.pdf

（概要）
奈良女子大学理学部では、理学を通した教養教育と専門教育を行います。理学は真理探究を目的としたすべての自然科学の基盤であり、今日の科学技術を支える礎です。また、人類全体の文化的・知的財産でもあります。理学部では、そのエッセンスを伝え、学問をする楽しさを皆さんが実感できる教育の実現を目指しています。
皆さんの持っているさまざまな疑問や好奇心を生かしそれらを成果として結実させるためには、理学に関するしっかりした学問的素養を身につけ、その背後にある科学的思考力と方法論を修得しなければなりません。本理学部では、長年培ってきた理学教育の伝統を継承するとともに、新しい教育方法を積極的に取り入れることにより、基礎的内容から専門に特化した分野まで、系統的で、実践的な教育を行っています。 これにより自然に対する深い洞察力と的確な判断力を備え、将来、大学・教育機関、公的機関、企業等で活躍できる人材を育てることを目標としています。
本理学部は、数学と物理学が融合・連携して教育を行う数物科学科と化学、生物科学、環境科学が連携して教育を行う化学生物環境学科の２学科体制を敷いています。それぞれの学科において、体系的に構築されたカリキュラムのもと、理学の本質を学び、活発な研究活動を経験することにより、しっかりした科学の素養をもち、グローバルな視点から様々な課題に挑戦できる能力を持った人材を育成します。
【身につけるべき力】
・数学・物理学・化学・生物学・環境科学などの理学全般の広い素養
・理学の高いレベルの基礎科学の知識、それらを応用して新しいものを作り出す創造力
・実践的な研究活動を通じて新しく問題を発掘する力や課題を解決する力
・専門知識をみんなと共有し、共同で課題に挑戦できるコミュニケーション力と、それを社会に生かす力
【学位授与の要件】
理学部が提供するカリキュラムにより所定の単位を取得し、上記のような素養・能力を複合的に身につけた学生に学士（理学）の学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：　Web 上で掲載）
http://www.nara-wu.ac.jp/rigaku/policy_pdf/faculty_of_science_policy.pdf

（概要）
【カリキュラム構成の基本方針】
理学部のカリキュラムは教養科目と専門教育科目から構成されています。教養科目では外国語科目と保健体育科目が必修となっているほか、幅広い教養を身につけるための科目を提供しています。専門教育科目では、理学部の全体像や各学科やコースで学ぶ内容を概論的に学ぶ学部共通科目や学科共通科目を開講するとともに、それぞれの専門を基礎から応用まで無理なく、順を追って学修・修得できるように、各学科やコースごとに工夫された科目構成になっています。
【教育の内容と方法】
・全学共通科目（基礎科目群、教養科目群）により、幅広い一般教養を身につけることができます。
・１，２年次に学部共通、学科共通の開講科目の履修により、数学、物理学、化学、生物学、環境科学に関する基礎的な素養を身につけることができます。
・学科・コース別に開講されている多くの専門科目では、各分野の基礎から専門的で発展的な内容までが網羅されており、各分野を深く理解し専門的な事項を習得することができます。
・皆さんが能動的に学修や研究に参加する形式の授業や実験・演習が多く準備されており、

そこでは理学を学ぶことを通じて、自らが思考して問題解決に取り組む経験を積むことにより実践力を高めることができます。
・海外短期留学や企業インターンの経験を積むことにより、グローバルな視点や実践力を培うことができます。
・最終年度に履修する「卒業研究」では、それまでに学んだ専門知識に基づいて、卒業研究を行い自ら研究する経験を積むとともに、その成果をひとりひとりが的確に説明する能力を高めます。
【学修成果の評価】
学修成果の評価方法は、あらかじめシラバスに記載されており、科目に応じて、定期試験、授業外レポート、演習や卒業研究の内容などによって行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web 上で掲載）
http://www.nara-wu.ac.jp/rigaku/policy_pdf/faculty_of_science_policy.pdf

（概要）
【教育理念】
現代では社会の様々な分野で自然科学の知識と視野を持つ人材が必要とされています。この社会からのニーズに応じ、理学部では、数学を含む自然科学の各分野の基礎と専門的知識の教育を行い、さらに研究活動への参加を通じて、科学的な思考力、自ら考え、自ら問題に取り組む能力を修得させます。理学部は、自然科学の素養と知識を生かしながら、現代社会の各分野で諸課題にリーダーシップを持って主体的に貢献できる女子を育成することを目標としています。
【求める学生像】
上記の教育理念にもとづき、理学部は次のような資質および意欲をもつ学生を求めます。
（１）自然科学の各分野における種々の事象に興味を持ち、学修と探究に意欲を持つ人
（２）高等学校等の各科目の基礎学力を持ち、論理的・科学的思考の基盤になる数学と理科を理解している人
（３）自然科学の素養を生かしながら、社会の各分野で積極的に貢献しようとする意欲を持つ人
【入学者選抜の基本方針】
「求める学生像」にふさわしい入学者を選抜するため、一般選抜前期日程、一般選抜後期日程、学校推薦型選抜、総合型選抜探究力入試「Ｑ」、私費外国人留学生入試、高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試、第３年次編入学入試を行います。
一般選抜前期日程、一般選抜後期日程では、高等学校における学習の基本的達成度を評価する大学入学共通テスト、基礎的学力と論理的思考力を問う個別学力検査、および調査書の内容を総合して合否を判定します。
学校推薦型選抜では、書類審査および大学入学共通テストの成績を総合して合否を判定します。
総合型選抜探究力入試「Ｑ」では、基礎学力、思考力、表現力、探究力を総合的に判断するために、第１次選考（書類選考）と第２次選考（各コースの方法）を行い、合否を判定します。
私費外国人留学生入試では、留学生に必要な基礎学力を評価する日本留学試験の成績、独自に行う学力検査および面接（化学生物環境学科生物科学コースおよび環境科学コースでは面接のみ）の成績、日本留学試験の成績、TOEIC 又は TOEFL の成績を総合して合否を判定します。
高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試では奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、選抜単位ごとに、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等をもとに、適性等を総合的に評価します。
第３年次編入学入試の一般選抜では学力検査（筆記試験および口述試験）の成績、成績証明書を総合して合否を判定します。化学生物環境学科化学コースでは編入学入試の推薦選抜を行い、面接と出願書類を総合して合否を判定します。

学部等名　生活環境学部
教育研究上の目的（公表方法：Web 上で掲載） http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/purpose/index.html
（概要） 生活環境学部は、生活の根幹である衣・食・住や家族の環境など、生活を取り巻く様々な生活環境を教育研究の対象とし、生活に関わる諸問題を科学的に分析し、高度な教育・研究を進め、生活診断力や生活改善力に優れ、生活者の目で見て社会をリードできる女性専門職業人を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：Web 上で掲載） https://www.nara-wu.ac.jp/life/2017/pdf/seikan_policy2022.pdf
（概要） 【学部の教育理念】 奈良女子大学生活環境学部は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目指しています。教育内容は、生活の根幹である衣食住を基盤として、心身の健康･情報･文化などの多様な分野にまで及びます。学際的な教育を通じて、生活に関する専門的知見と生活の質の向上に向けた新しい発見と創造を生み出す力を持ち、個人、家庭そして社会の生活を主体的に創造できる能力を持った人材を育成します。 【身につけるべき力】 ･生活環境に関わる専門的知見と幅広い教養を持ち、生活を主体的に創造する能力。 ･生活の諸問題について生活者の視点より分析理解し、その解決に積極的に挑戦する能力。 ･自律的な行動と判断を行い、他者と柔軟なコミュニケーションを築き、個人、家庭そして社会の生活をリードできる能力。 【学位授与の要件】 所定の在学期間在学し、授業科目の履修を通じて上記の資質・能力を身につけ、各学科・コースごとに定める卒業要件を修めた者に学士の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：　Web 上で掲載） https://www.nara-wu.ac.jp/life/2017/pdf/seikan_policy2022.pdf
（概要） 【生活環境学部のカリキュラム構造】 生活環境学部のカリキュラムは教養教育科目と専門教育科目から構成されています。教養教育科目ではグローバルな視野を培う外国語科目、健康な生活の基礎づくりとなる保健体育科目が必修となっているほか、幅広い教養と創造性を身につけるための教養科目を提供しています。専門教育科目では初年次科目として生活環境学の全体像や各学科・コースで学ぶ内容を概論的に理解するための学部共通科目と学科共通科目、専門的知見を修得するための科目として学科専門科目とコース専門科目を開講しています。各学科・コースとも生活環境学部における学修の総括として、卒業研究を通じて、自身の専門分野に関する研究を深め、成果発表することを卒業のための必修要件としています。また、大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める 6 年一貫教育プログラムも提供しています。 【教育の内容と方法】 生活環境学部の教育内容は生活の根幹である衣食住を基盤として、心身の健康･情報･文化などの多様な分野にまで及びます。幅広い教育内容を反映して、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。多岐で多様な教育を通じ、専門性を高めるだけでなく、領域横断的でグローバルな視野をもって主体的に生活の問題解決をはかる人材を養成したいと考えています。 【学修成果の評価】 授業科目に対する成績評価については、科目修了試験と平素の学習状況を総合して行います。成績評価はあらかじめ成績評価基準を明示し、厳正に判定します。なお、科目によっては、科目修了試験に替え、レポートの提出、実験や実習、演習の成果をもとに成績評価を行う場合もあります。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web 上で掲載）
https://www.nara-wu.ac.jp/life/2017/pdf/seikan_policy2022.pdf

（概要）

【生活環境学部の教育理念】

生活環境学部は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮できる人材の育成をはかることを目指しています。教育内容は、身体や性にはじまって、衣食住に関わるあらゆる問題に及び、さらには地域や世界の環境問題までも射程に収めています。このような幅広い教育を提供するために、生活環境学部は文理融合型学部として、食物栄養学科・心身健康学科・住環境学科・文化情報学科の４学科から構成されています。学科の性格が多様であることに伴い、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。しかし、生活環境学の総合的教育という学部理念に即して、つねに生活者の視点を失わないことを重視しています。生活者の視点とは、利用者・消費者といった立場からの批判と改善の視点であり、わたしたちの生活の質の向上に向けた新しい発見と創造を生み出す視点です。生活環境学部は、各学科の教育目的に応じて専門性を高めるだけでなく、学科を超えた学際的な教育を通じ、領域横断的でグローバルな視野をもって問題解決をはかる人材を育成したいと考えています。

【生活環境学部が求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、生活環境学部は次のような資質および意欲をもつ学生を求めます。

（１）幅広い関心と各学科が必要とする基礎的学力をもつ人

（２）生活者の視点をもつリーダーあるいは主体的・能動的な生活者になることを目指している人

（３）日常生活に対する感受性と洞察力にすぐれ、豊かな想像力をもって他者との共生・協働をはかり、社会的弱者や文化的背景を異にする他者への共感をもつ人

（４）社会のリーダーあるいは主体的生活者となるために、課題発見能力・問題解決能力・論理的思考力の開発に積極的に取り組む意欲をもつ人

（５）各学科の教育理念に即したカリキュラムを真摯な姿勢で学び、学んだ成果を、専門職・企業人・公務員・教員等として積極的に地域や社会に還元したいという意欲をもつ人

【生活環境学部における入学者選抜の基本方針】

生活環境学部では、一般選抜前期日程、一般選抜後期日程、学校推薦型選抜、総合型選抜探究力入試「Q」、高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試、私費外国人留学生入試、第 3 年次編入学入試を行います。一般選抜前期日程、一般選抜後期日程、学校推薦型選抜では、高等学校における学習の基本的達成度を評価する大学入学共通テストと、求める学生像にふさわしいかどうかを評価する個別学力検査(一般選抜後期日程と学校推薦型選抜は面接)によって合否を判断します。

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第 1 次選考（書類選考）と第 2 次選考（小論文、プレゼンテーション、質疑応答など）によって合否を判断します。高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試では、奈良女子大学附属中等教育学校において、新しい高大接続のあり方のモデルを開発・発信すべく設置された高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。私費外国人留学生入試では、留学生に必要な基礎学力を評価する日本留学試験の成績と TOEFL のスコアおよび求める学生像にふさわしいかどうかを評価する個別学力検査によって合否を判断します。

第 3 年次編入学入試では、専門分野を学ぶのに必要な基礎学力を身につけているかを評価する筆記試験（英語、小論文）と、求める学生像にふさわしいかどうかを評価する口述試験によって合否を判断します。

学部等名　工学部
教育研究上の目的（公表方法：Web 上で掲載） http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/purpose/index.html 工学部の目的・・・下記の概要のとおり。 工学科の目的・・・工学科は，工学の専門知識や技術に加えて，人間と社会，自然と科学に関する幅広い教養を身に付け，それらから工学的視点に立って社会にイノベーションを起こす力を身に付けた工学系女性人材を育成することを目的とする。
（概要） 工学部は，産業界の多様な分野において課題の本質の理解や探究心をもたせるために，STEAM 教育に基づく知識に加えて，幅広い教養や工学の基礎知識に立脚する応用力とコミュニケーション能力を強化し，発見や創造に立ち向かう主体性を身に付けた人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：Web 上で掲載） http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/3policies/pdf/engineering/f_of_engineering.pdf HP に掲載されている工学部の三つのポリシー（ディプロマポリシー）　・・・下記の概要のとおり。
（概要） 【学位授与の前提となる教育理念】 工学部では、「男女共同参画社会をリードする人材の養成」という基本理念に基づいて教育を行い、社会にイノベーションを起こす人間情報分野と環境デザイン分野の工学系女性人材を輩出するために、次の 3 つの能力「主体性と理解力」「専門性と問題解決力」「社会性と波及力」を身につけた人材を育成します。 【身につけるべき資質・能力】 ・「主体性と理解力」 課題発見やニーズ創出を行う際に必要となる主体的な学修態度を身につけ、幅広い教養に基づいて多様な課題を理解して対応できる能力 ・「専門性と問題解決力」 サービスも含めた「ものづくり」において、自身の専門知識と技術を駆使して、問題解決に対応できる能力 ・「社会性と波及力」 社会への影響なども考慮しながらチームで協働し、異分野間でも効果的なコミュニケーションができる能力 【学位授与の要件】 上記の能力を備えた人材を育成するため、それぞれの能力をさらに細分化した下記の学修成果を基準に単位認定を行い、必要単位数を取得した者に学位を授与します。 ・「主体性と理解力」 (1)幅広い知識 人間と社会、自然と科学に関する幅広い教養と工学の基礎知識を備え、それらを基盤にして未知なるものを受け入れ、理解しようとする力（理解力）を身に付ける。 (2)課題創造力 技術を適用することで解決可能な課題を見つけ出すために、自ら問いをたてて学び続ける姿勢を身に付ける（主体性の獲得）。 ・「専門性と問題解決力」 (1)専門知識・技術 人間情報分野あるいは環境デザイン分野における専門知識・技術や、分野にまたがる汎用的な知識を体系的に身に付ける（専門性の獲得）。 (2)問題解決力 専門性を駆使して課題を解決するため、仮説を生成して実現可能な解を考案し、考案した解を検証して修正する、という能力（問題解決力）を身に付ける。 ・「社会性と波及力」 (1)協働力

社会への影響なども考慮しながら、複数の要因が関わる複雑な問題を解決するために、多様な専門性や価値観をもつ人とチームで協働できる能力（社会性の獲得）を身に付ける。
(2)コミュニケーション力
専門知識や技術を用いた解決策を広く社会に還元するために、平易に説明して伝えることができる能力（波及力）を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：　Web 上で掲載）
http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/3policies/pdf/engineering/f_of_engineering.pdf
HP に掲載されている工学部の三つのポリシー（カリキュラムポリシー）　・・・下記の概要のとおり。

（概要）
【基本的なカリキュラム構造】
人間と社会、科学と技術の両面に渡る理解力と、それらを主体的に結び合わせて課題を発見し、考案した解決策を社会に提案して実現していく力を養成する科目群を「基幹科目群」として、工学を学ぶ上での基礎的な知識と能力を養成します。また、人間情報分野あるいは環境デザイン分野における専門知識や技術を理解し、課題の解決策を提案するとともに検証し、新たな技術を実現可能な形で提案する力を養成する科目群を「専門科目群」として、人間情報分野もしくは環境デザイン分野の専門性を獲得します。それから、異なる分野の知見を連携して活用する際に重要となる、チームで協働する能力や専門の異なる人に平易に説明する能力をプロジェクト形式で涵養する PBL 科目を設けて、科目群を連携します。
工学部の育成人材像に掲げる次の 3 つの能力「主体性と理解力」「専門性と問題解決力」「社会性と波及力」を修得させるため、以下に基づき教育課程を編成します。
・「主体性と理解力」
工学の基礎知識や、主体的な学びの姿勢と課題創造力を身に付けるための基幹科目群を設けるとともに、人間と社会、自然と科学などの幅広い教養に関する奈良女子大学の教養教育科目を設ける。
・「専門性と問題解決力」
学びの姿勢に加えて、工学に関する基礎的態度や知識などを身に付けた後に、生体計測と情報処理の専門知識と技術を身につけ、個人に適応したデバイスやシステムを造り出す人間情報分野の専門性、あるいは、環境と素材の専門知識と技術を身につけ、安全で持続可能な環境設計や機能性素材を開発する環境デザイン分野の専門性を身に付けるための科目を設けるとともに、これらの科目との関係が深い力学やデザインに関する科目などを設ける。
・「社会性と波及力」
社会へ及ぼす影響なども考慮しながらチームで協働し、人や社会にとって有用なニーズの創出や、ニーズを満たすモノやサービスを創り出す方法を体験的に学ぶ PBL 科目を設けるとともに、ビジネスに関する科目や、国際 コミュニケーション力の基礎としての外国語科目を設ける。
【教育内容と方法】
基幹科目群のうち、基幹必修科目は、理工系教育と芸術教育からなる STEAM 教育と、主体性や批判的精神を涵養する科目からなるリベラルアーツ教育で構成され、学修の基礎をつくります。また、工学と現実のつながりを理解し、工学的な創造性を涵養する２つの PBL 科目もここに含まれます。選択科目である基幹発展科目は、情報系、人間の特性に関わる理数系、物理化学の実験、ものづくりに関わる様々な科目からなり、基幹必修科目の学習を発展させつつ、専門分野を学ぶ基礎をつくります。
専門科目群は、生体計測に基づく生体医工学エリアと情報処理を学ぶ情報エリアの専門知識と技術を身につける人間情報分野と、建築などを扱う人間環境エリアと素材を扱う材料工学エリアの専門知識と技術を身につける環境デザイン分野の科目からなり、それぞれに専門分野の基礎をつくる専門基礎科目と、その上に立って学問的・技術的な解決策を提案し検証する力を養う専門応用科目があります。また、学修の統合と発展、あるいは異なる

エリアの知見を連携して活用し、チームで協働する能力や専門が異なる人に説明する能力を涵養する３つの選択必修の PBL 科目があります。以上を通じて、各エリアもしくは複合的な分野で新しい製品や技術などを実現可能な形で提案する力を養います。
教育方法としては、学生の主体的な学びと異分野融合を涵養するために、必修科目と選択必修科目を除いて履修科目と履修年次を学生が自主的に決めることができます。ただし、基幹必修科目は学修の基盤を形成する科目なので早期履修を推奨します。また、専門分野に応じて履修すべき科目や順序がある場合は、履修モデルとして提示します。さらにディプロマ・ポリシーに掲げた能力を評価する重要科目を PEPA（Pivotal Embedded Performance Assessment）の考え方に沿って評価し、ポートフォリオを活用して履修に関する助言を行います。以上より、主体的に学びながらもディプロマ・ポリシーに掲げた資質と能力を備えることが可能です。
【学習成果の評価と仕方】
PBL 科目を中心に、カリキュラム・ポリシーに掲げた能力を集約的に評価できる重要科目は、PEPA の考え方に沿った評価を行います。その他の科目は、授業形態に応じて、授業毎に設定された評価方法で評価を行います。評価の方法についてはシラバスに明示します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：Web 上で掲載）
http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/3policies/pdf/engineering/f_of_engineering.pdf
HP に掲載されている工学部の三つのポリシー（アドミッションポリシー）　・・・下記の概要のとおり。

（概要）
【教育理念】
工学部では、快適な生活や社会のために時代のニーズとシーズを読み取り、次の時代に期待されるモノやサービスの創出に正面から取り組むことのできる人材を育成することを目的としています。
【求める学生像】
上記の教育理念にもとづき、工学部は次のような資質および意欲をもつ学生を求めます。
（１）人の生活を豊かにする方法に興味をもち、現代的技術を使って実現したいと望む人
（２）科学技術の分野に興味があり、その分野で社会に役立つ仕事をしたいと望む人
（３）芸術、文化、歴史、社会等の広い範囲に興味があり、そのことに科学技術を使ってみたい人
（４）主体的に学び、考え、実行し、反省することができる人
（５）創意、発見する知の探究マインドを持っている人
（６）そのための基礎学力と学習習慣を身につけている人
【入学者選抜の基本方針】
多彩な人材との交流による知識の融合と、他者の理解による自己特性の認識を深めるため、多様な選抜方法を利用して、多面的・総合的に評価します。いずれの選抜方法においても、調査書等を用いて高等学校段階までの履修状況を確認します。受験希望者は高等学校までに学ぶ数学、理科、国語、外国語、地理歴史・公民について十分な基礎学力を身につけておくことが重要です。特に、理科、数学、英語は十分な学修をしていることが望まれる科目です。多様な学生を選抜するために、各入試方法で科目と配点を区別します。
一般選抜（前期日程）
大学入学共通テストを課します。さらに、問題解決力を問うため、筆記試験による個別学力検査を課
し、基礎学力と理数系の思考力・判断力・表現力等を評価することで、基礎学力と学習習慣を身につけ
ている人を重視します。また、理数系の能力においても得意分野の多様性を求めるために、前期日程で
は理科の能力を重視して、理科（分野の特性から物理、化学、生物の中から１つを選択）、英語、数学
の個別学力検査を行い、数学は数学（Ⅰ、Ⅱ、Ａ、Ｂ）を範囲とします。
一般選抜（後期日程）

大学入学共通テストを課します。さらに、問題解決力を問うため、筆記試験による個別学力検査を課し、基礎学力と理数系の思考力・判断力・表現力等を評価することで、基礎学力と学習習慣を身につけている人を重視します。また、理数系の能力においても得意分野の多様性を求めるために、後期日程では数学の能力を重視して、全領域の数学（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B）を範囲とします。
学校推薦型選抜
大学入学共通テストの結果に加え、書類審査と面接（口述試験を含む）により、専門領域についての関心に加え、コミュニケーション能力として自己表現能力、協調性、理解度、そして工学系分野で社会へ貢献することの意欲などを総合的に評価します。
総合型選抜 探究力入試「Q」
大学入学共通テストを課さない特別入試とし、多様な学生を選抜するため２つの異なる評価基準（Q2 と Q3）で選抜します。
Q2 では１次選考で高等学校における学習および活動を示す書類から基礎学力と学習習慣が身についていることを評価します。２次選考で実施するグループワークによるデータ処理作業などによっても基礎学力を問い、ブレーンストーミングやディベートなどによって「多彩な人材との交流による知識の融合」と「他者の理解による自己特性の認識」の観点から、科学技術分野への興味と意欲、技術者としての適性や主体性、多様な人々と協働する姿勢などを多面的に評価します。
Q3 では課題創造力および問題探究能力を中心に評価するために、１次選考では中等教育課程における課題研究活動を踏まえ、提出課題から主体的な学修姿勢、新たな課題の創造と問題探究能力を評価するとともに、高等学校における学習および活動を示す書類から学習習慣が身についていることを評価します。２次選考では、提出課題に関するプレゼンテーションおよび質疑応答から、専門領域についての関心に加え、主体的・協働的な学びを行うためのスキルと態度、課題創造力、問題解決力、コミュニケーション能力、理解度、意欲などを総合的に評価します。
第 3 年次編入学入試
編入後の勉学に支障をきたさないよう本学部のカリキュラム・ポリシーに適応可能な能力を有しているかを見るために、提出書類、筆記試験および面接により総合的に評価します。筆記試験および面接では、基礎学力や専門分野の学力を見るとともに、専門領域についての関心に加え、古都奈良にある伝統と文化、本学の多彩な教養教育にも興味を有し、主体的・協働的な学びを行うためのスキルと態度、課題創造力、問題解決力、コミュニケーション能力、理解度、意欲などを総合的に評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ＨＰにより公表
URL：http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/management/index.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	6 人	－					6 人
文学部	－	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人
理学部	－	0 人	0 人	0 人	1 人	0 人	1 人
生活環境学部	－	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人
その他	－	99 人	61 人	10 人	24 人	0 人	194 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	250 人	250 人

各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法：大学ＨＰにより公表 URL: https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/research/index.html

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

教育の質を保証するために、学生の授業評価アンケート等の各種調査・検証を行い、その結果をフィードバックするとともに、教育及び教育体制の改善のための研修を行うなど、全学及び学部レベルでのＦＤ活動に取り組んでいる。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	150 人	155 人	103.3%	632 人	681 人	107.8%	16 人	13 人
理学部	135 人	149 人	110.4%	605 人	645 人	106.6%	10 人	9 人
生活環境学部	145 人	161 人	111.0%	698 人	768 人	110.0%	4 人	8 人
工学部	45 人	48 人	106.7%	200 人	48 人	24.0%	10 人	0 人
合計	475 人	513 人	108.0%	2135 人	2142 人	100.3%	40 人	30 人

（備考）

b.卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
文学部	161 人 (100%)	31 人 (19.3%)	112 人 (69.5%)	18 人 (11.2%)
理学部	171 人 (100%)	97 人 (56.7%)	69 人 (40.4%)	5 人 (2.9%)
生活環境学部	195 人 (100%)	69 人 (35.4%)	115 人 (59.0%)	11 人 (5.6%)
工学部	－	－	－	－
合計	527 人 (100%)	197 人 (37.4%)	296 人 (56.2%)	34 人 (6.4%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
主な進学先／奈良女子大学大学院　　主な就職先／奈良県庁、奈良市役所、三菱電機，福栄鋼材

（備考）

c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	161 人 (100%)	144 人 (89.4%)	6 人 (3.7%)	4 人 (2.5%)	7 人 (4.3%)
理学部	170 人 (100%)	158 人 (93.0%)	0 人 (0%)	7 人 (4.1%)	5 人 (2.9%)
生活環境学部	189 人 (100%)	174 人 (92.1%)	2 人 (1.1%)	3 人 (1.6%)	10 人 (5.3%)
工学部	－	－	－	－	－
合計	520 人 (100%)	476 人 (91.5%)	8 人 (1.5%)	14 人 (2.7%)	22 人 (4.2%)

（備考）その他へは、入学者のうち、除籍および在学期間（休学期間を除く）が修業年限内である学生を計上している。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
次年度授業科目のシラバス作成依頼（例年 1 月）にあたっては、教育計画室にて定めた文書「シラバス作成について」を授業担当者に示し、内容および書き方について指定している。具体的には、授業名、担当教員名、時間割、教室、授業方法、授業で使用する言語、対象学生、単位数・週時間といった基本情報の他、担当教員の実務経験、授業の概要と学習到達目標、授業計画（各回の内容と事前・事後学習を含む）・教科書・参考書、成績評価の方法（評価割合を含む）等について詳細に解説している。特に学習到達目標については、さらに文書「学習成果ガイドライン」の参照を促し、趣旨の徹底を図っている。学務課にて集約されたシラバスは検索システム Campusmate-J を通じて Web 上で公開され（例年 3 月）、学生はじめ閲覧の用に供している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
平成 27 年度以降入学生については GPA 制度を導入し、全学生に配布される『全学教育ガイド』に成績評価基準および不正行為に対する注意喚起とあわせて記載するとともに、毎学期に各学生に交付する成績通知書に当該学期および通算の GPA 値を記載し、学部・学年別の GPA 分布は学内で共有を図っている。一方、各学部で、指導を担当している学科・コースの教員に、当該学科・コースに所属する学生の GPA のリストを学年別に通知し、特に数値の低い学生については当該教員に個別指導を促している。さらに、各学期の終期に Web 上で成績及び GPA を確認する期間を設け、学生自身が確認したことを調査し、個別指導の有無も確認している。確認した成績については、次学期のはじめに「成績確認期間」を設け、学生が自身の成績について疑義がある場合は学務課の所属学部担当係に申し出るよう『全学教育ガイド』に記載している。申立があった場合、科目担当者に連絡して回答を求め、最終的に学生の納得が得られたかどうか確認している。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
文学部	人文社会学科	124 単位	(有)・無	48 単位
	言語文化学科	124 単位	(有)・無	48 単位
	人間科学科	124 単位	(有)・無	48 単位
	※子ども教育専修プログラム	133 単位		
理学部	数物科学科	124 単位	(有)・無	44 単位
	化学生物環境学科	124 単位	(有)・無	44 単位
生活環境学部	食物栄養学科	124 単位	(有)・無	48 単位
	心身健康学科	124 単位	(有)・無	48 単位
	情報衣環境学科	124 単位	(有)・無	48 単位
	住環境学科	124 単位 *R3 入学生迄は 130 単位	(有)・無	48 単位
	生活文化学科	124 単位	(有)・無	48 単位
	文化情報学科	124 単位	(有)・無	48 単位
工学部	工学科	124 単位	(有)・無	48 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：冊子『CAMPUS LIFE』、Web 上の公開情報：
http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/about/index.html　大学概要
http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/center/index.html　蔵書数
http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/faculty/index.html　学部、附属機関の HP

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部	全学科	535,800 円	282,000 円	56,400 円	その他費用：宿舎費年額（入寮者から徴収）

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）
学生の経済的負担を軽減するために、学資負担者の死亡や罹災、その他経済的理由により入学料や授業料の納付が著しく困難な者について、選考の上、入学料・授業料を全額又は一部額を免除する制度を設けている。また、独自の奨学金制度として、一人親世帯のため経済的に特に困窮している者に給付する廣岡奨学金、学業優秀者に授与される広部奨学金及び佐保会奨学金、育児中の学生を支援するための育児奨学金を設けている。
さらに、学生に安定した生活の場を提供し、修学上の便宜を図るため、学生寄宿舎として寄宿寮と国際学生宿舎を整備している。併せて、自宅から通学が困難な学生のために、紹介(仲介)は行っていないが、大学近辺のアパート等の家主からの物件情報の閲覧ファイルを設置し、情報の提供を行っている。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
学生の就職活動を支援するため、キャリアカウンセラーの資格を持ったキャリアアドバイザーによる個別相談制度を実施している。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
学生生活全般についての相談（学生相談室）、健康についての相談（保健管理センター）、セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメントなどの相談（ハラスメント防止・対策委員会）、母性にかかわる健康相談（ワークライフバランス支援相談室）といった様々な相談制度を設けている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ＨＰにより公表
URL: https://www.nara-wu.ac.jp/nwu/intro/publication/index.html

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F129110109215
学校名	奈良女子大学
設置者名	国立大学法人奈良国立大学機構

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		190人	186人	198人
内訳	第Ⅰ区分	111人	106人	
	第Ⅱ区分	49人	55人	
	第Ⅲ区分	30人	25人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				200人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	0人		
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	1人		
「警告」の区分に連続して該当	1人		
計	1人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期		後半期	

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	0人		
ＧＰＡ等が下位４分の１	27人		
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	1人		
計	27人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。